

2015年8月31日

2015年夏季「物価と消費に関するアンケート」結果
暮らし向きはマイナス水準ながら3期ぶりに改善
世帯収入は「もちあい」に近づく
 物価水準高く、節約意識は依然根強い

(株)滋賀銀行のシンクタンクである (株)しがぎん経済文化センター(大津市、取締役社長 中川 浩)は、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「2015年夏季・物価と消費に関するアンケート」調査を行い、その結果をまとめた。

なお今回、特別項目として「現在の消費動向について」の調査も行った。

【調査の概要】

- ・調査名：「2015年夏季・物価と消費に関するアンケート」
- ・調査時期：2015年6月11日(木)、12日(金)、15日(月)の3日間
- ・調査対象：滋賀銀行の本支店にご来店の女性(県内在住者のみ)
- ・有効回答数：702人

うち29歳以下：126人、30代：118人、40代：171人
50代：150人、60歳以上：137人

【調査結果の要旨】

1. 定例項目

- (1) **【暮らし向きDI】…3期ぶりに改善、今後は再び悪化の見通し**
 - ・現在の「暮らし向きDI」は-12.6で、前回(-20.3)から7.7ポイント上昇。
 - ・半年後は-17.2で、現状から-4.6ポイントと再び悪化に転じる見通し。
- (2) **【世帯収入DI】…3期連続で改善し、「もちあい」に近づく**
 - ・現在の「世帯収入DI」は-2.9で、前回(-7.7)から4.8ポイント上昇。
 - ・半年後は-12.5で、現状から9.6ポイント低下する見通し。
- (3) **【物価DI】…高止まり、今後も高い水準が続く見通し**
 - ・現在の「物価DI」は+86.0で、前回(+86.5)から-0.5ポイントと横ばい。
 - ・半年後は+85.8で、現状とほぼ変わらず、依然、高い水準が続く見通し。
- (4) **【耐久消費財の購入】…依然、厳しい状態が続く**
 - ・「良くなる」「やや良くなる」の合計が7.7%と、前回(4.9%)から2.8ポイント増加。
 - ・「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は34.9%で、前回(44.5%)から9.6ポイント減少。
 - ・「変わらない」は57.4%で、前回(50.5%)から6.9ポイント増加。依然、厳しい状態が続く。

2. 特別項目：現在の消費動向について

- (1) **値上がり実感、「野菜、果物」で8割、「乳製品」「光熱・水道費」7割**
 - ・「値上がりを実感しているもの」(複数回答)は、「野菜、果物」が77.9%と最も高く、次いで「乳製品」(68.9%)、「光熱・水道費」(68.7%)が7割近くと高くなった。
- (2) **6割が「節約とお金をかけるものを分ける」**
 - ・6月以降の消費行動については、「節約するものとお金をかけるものを分ける」が60.6%と最も多く、「節約する」は34.3%となった。「節約にこだわらない」は5.1%にとどまった。
- (3) **「水道・光熱」「携帯・ネット費」「食料費」を中心に、節約意識は幅広く。「旅行・レジャー」「趣味・自己啓発」「教育費」は「消費を増やしたい」が上回る**
 - ・「増やしたいもの」は「特になし」が55.3%と最も多く、次いで「旅行・レジャー費」(24.5%)、「趣味・自己啓発費(習い事、英会話等)」「(子どもや孫の)教育費」(いずれも18.9%)となった。「減らしたいもの」は「光熱・水道費」(69.3%)が最多。次いで「携帯電話・インターネット等通信費」(54.6%)、「食料費」(54.0%)となり、節約意識は幅広い項目にわたった。
 - ・「特になし」を除き「増やしたいもの」の回答割合が「減らしたいもの」を上回ったのは「旅行・レジャー費」「趣味・自己啓発費(習い事、英会話等)」「(子どもや孫の)教育費」の3項目。

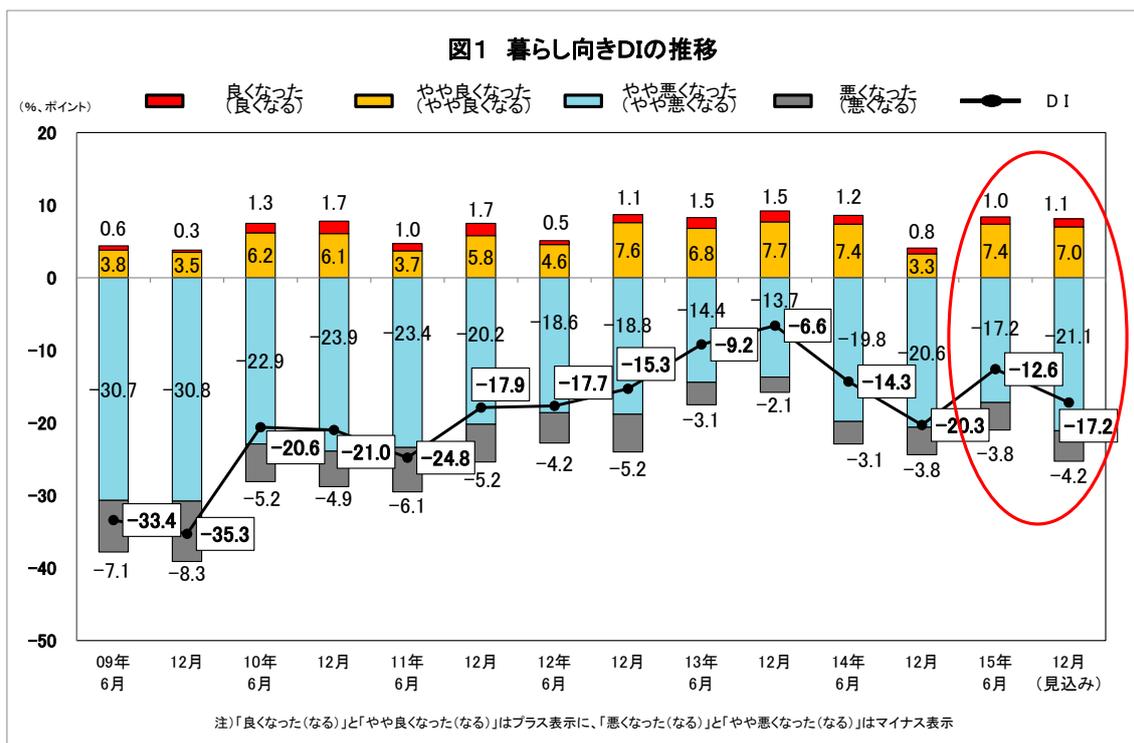
本調査結果に関するお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター
 産業・市場調査部 長山 (TEL 077-523-2245)

1. 定例項目

(1) 【暮らし向きDI】…3期ぶりに改善、今後は再び悪化の見通し

現在（2015年6月）の「暮らし向きDI」（「良くなった」「やや良くなった」と回答した割合から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した割合を引いた値）は-12.6となり、前回（14年12月：-20.3）から+7.7ポイントと、3期ぶりに改善した。

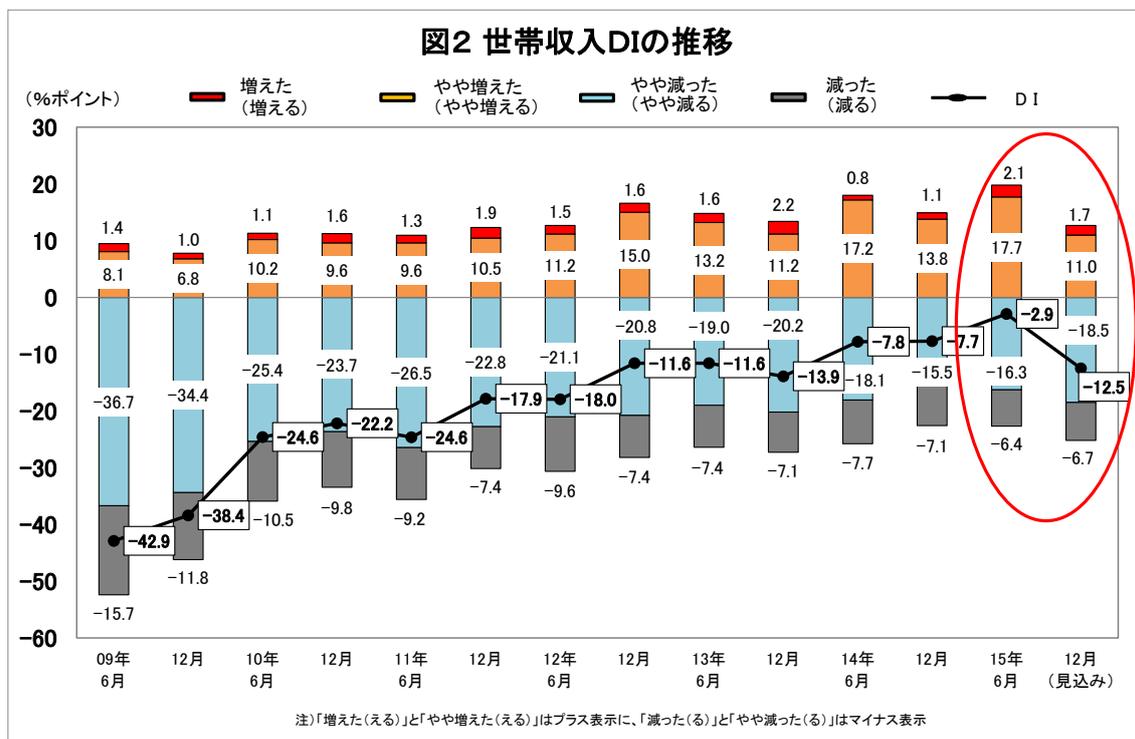
半年後については、「やや悪くなる」「悪くなる」と回答した割合が増え、「暮らし向きDI」は現在から4.6ポイント低下の-17.2と、再び悪化に転じる見通しである。しかし従来、見通しをやや厳しく判断する傾向もあるため、先行きは不透明といえよう。



(2) 【世帯収入DI】…3期連続で改善し、「もちあい」に近づく

現在の「世帯収入DI」（「増えた」「やや増えた」と回答した割合から「減った」「やや減った」と回答した割合を引いた値）は-2.9で、前回（14年12月：-7.7）から4.8ポイント上昇し「もちあい（=0）」に近づいた。現在の形式で調査を開始した2009年6月からの長期時系列でみると、回復傾向にあるといえる。

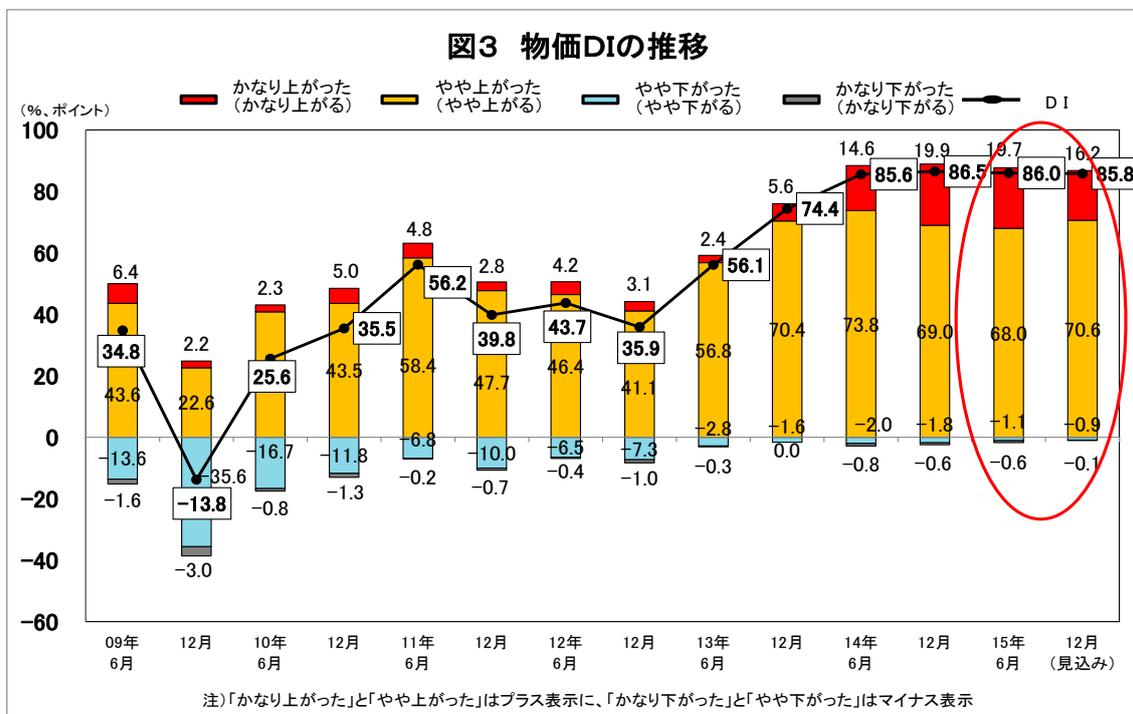
半年後の「世帯収入DI」は-12.5で、現在（-2.9）から9.6ポイント低下し大きく悪化する見通しである。しかし従来、見通しをかなり厳しく判断する傾向があるため、実際はこれほどの悪化にはならない可能性がある。



(3) 【物価DI】…高止まり、今後も高い水準が続く見通し

現在の「物価DI」（「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値）は+86.0となり、前回（14年12月：+86.5）から-0.5ポイントと横ばい。3期連続で+85超えと高止まりし、依然、物価上昇への意識は強い。

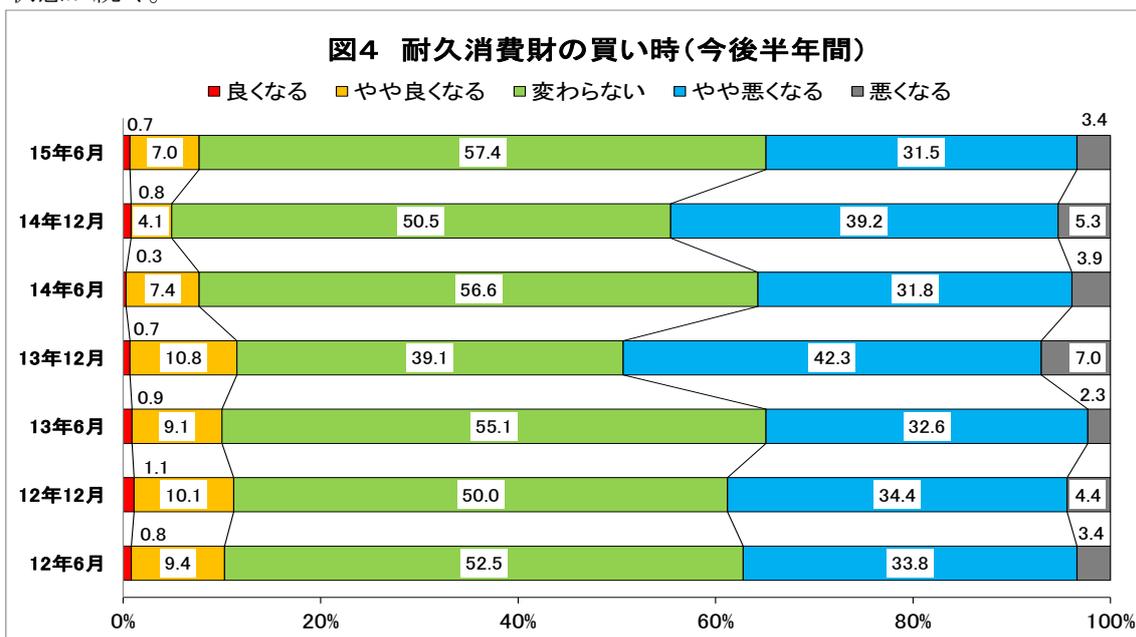
半年後の「物価DI」は+85.8で、現在（+86.0）とほぼ変わらず、高い水準が続く見通しである。



(4) 【耐久消費財の購入】…依然、厳しい状態が続く

「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」については、「良くなる」「やや良くなる」の合計が7.7%と、前回（14年12月：4.9%）から2.8ポイント増加した。また「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は34.9%で、前回（44.5%）から9.6ポイント減少した。

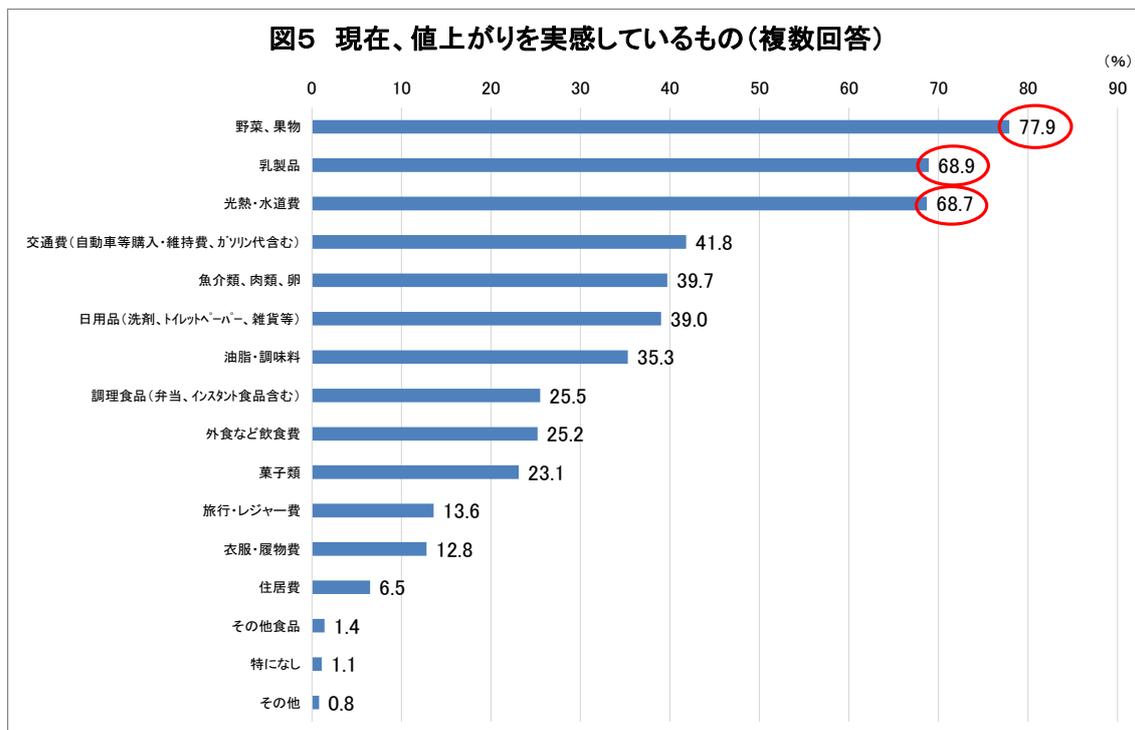
一方、「変わらない」は57.4%で、前回（50.5%）から6.9ポイント増加。依然、厳しい状態が続く。



2. 特別項目：現在の消費動向について

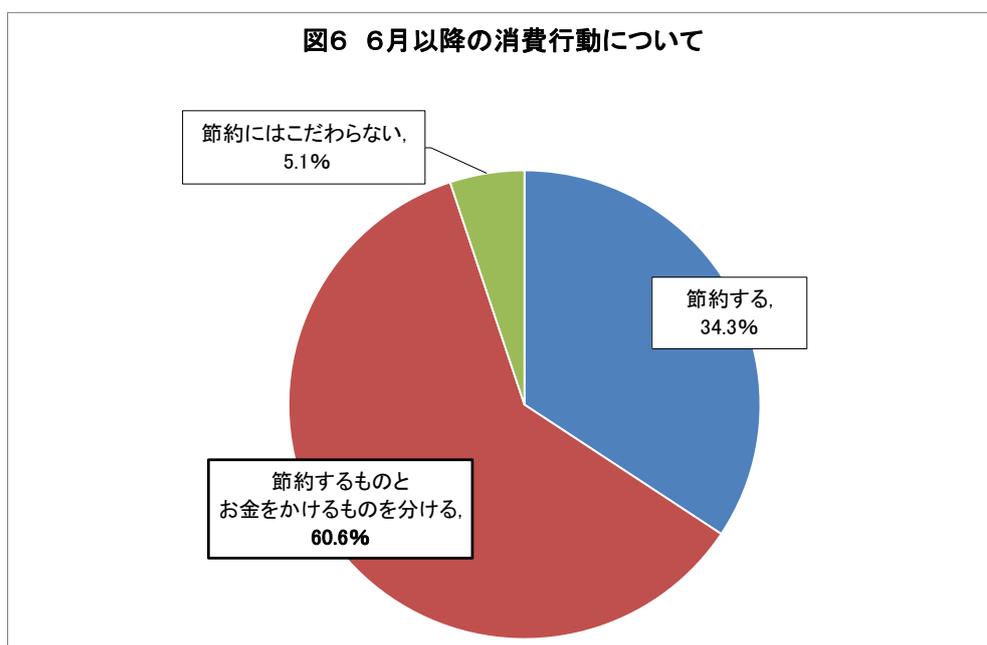
(1) 値上がり実感、「野菜、果物」で8割、「乳製品」「光熱・水道費」7割

「物価D I」（4ページ上段）が高止まりしていることから、依然として物価上昇を強く実感する状況が続いている。「現在、値上がりを実感しているもの」（複数回答）をたずねたところ、「野菜、果物」が77.9%と最も高く、次いで「乳製品」（68.9%）、「光熱・水道費」（68.7%）が7割近くと、この3項目が特に高くなった。また、「特になし」と回答する割合は1.1%で、ほとんどの家庭で何らかの値上がりを実感している。



(2) 6割が「節約とお金をかけるものを分ける」

アンケートを実施した6月以降の消費行動について尋ねたところ、「節約するものとお金をかけるものを分ける」が60.6%と最も多く、「節約する」が34.3%となった。「節約にこだわらない」は5.1%にとどまり、節約志向は強い。



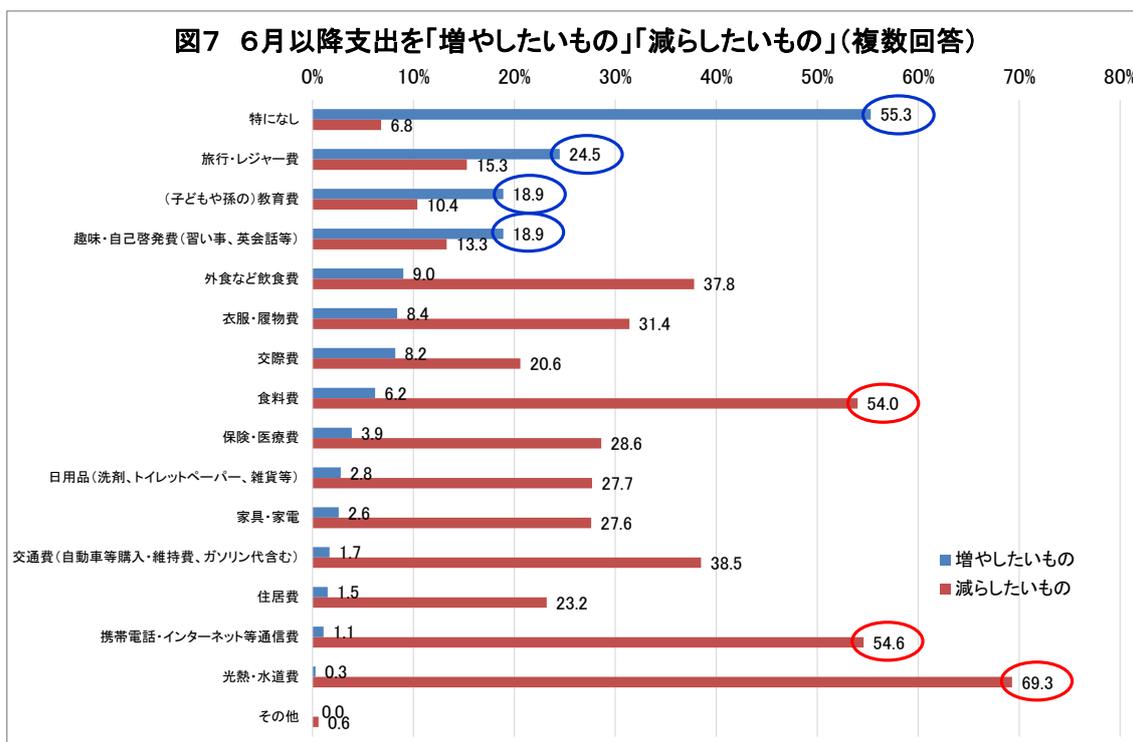
(3) 「水道・光熱」「携帯・ネット費」「食料費」を中心に、節約意識は幅広く。
「旅行・レジャー」「趣味・自己啓発」「教育費」は「消費を増やしたい」が上回る。

6月以降の支出について「増やしたいもの」「減らしたいもの」を尋ねた（複数回答）。

「増やしたいもの」では「特になし」が55.3%と最も多く、回答者の約半数を占めた。次いで「旅行・レジャー費」（24.5%）、「趣味・自己啓発費（習い事、英会話等）」「（子どもや孫の）教育費」（いずれも18.9%）が2割前後となった。

一方「減らしたいもの」では「光熱・水道費」（69.3%）が最も多くなり、次いで「携帯電話・インターネット等通信費」（54.6%）や「食料費」（54.0%）で5割を超えた。それ以下の項目でも3割前後の回答が多く、節約意識は幅広い項目にわたっている。

なお、「特になし」を除いて「増やしたいもの」の回答割合が「減らしたいもの」を上回ったのは「旅行・レジャー費」「趣味・自己啓発費（習い事、英会話等）」「（子どもや孫の）教育費」の3項目であった。



(4)「消費税増税」「物価上昇」「収入」で厳しい意見

フリー回答として「物価や世帯の消費行動について最近感じていること」を尋ねたところ、「消費税増税」「物価上昇」「収入（給与）」に関するコメントが多く寄せられた。一部を掲載する。

- ・消費税も上がったので他のものまで上がらないようにしてほしい。まだまだ中小企業の給与は上がっていない（彦根市、30代、専業主婦）
- ・消費税が上がっても給与は同じ（野洲市、29歳以下、会社員）
- ・消費税増税や物価の上昇による支出が増えているにもかかわらず、給与は以前と同じ状態のまま。これでは消費を抑えるしかない（大津市、40代、パート・アルバイト）
- ・景気が良くなった実感が全くないのに物価だけ上がっている感じ（大津市、40代、専業主婦）
- ・年金暮らしにとっては節約しか術はないが、だんだん値上がりして家計を圧迫。暮らしがよくなる実感はまったくない（甲賀市、60歳以上、専業主婦）
- ・消費税が8%になって毎日の食費にかかる負担が増えた。電気代も値上がりしており、生活全般が節約モードになっている（彦根市、50代、自営業）
- ・食費や電気代等、生活に欠かせないものが値上がりしている（蒲生郡、30代、会社員）

今回の調査では、マイナス水準ながら暮らし向きはやや改善し、世帯収入は「もちあい」に近づいた。

当社が例年5月に実施する「県内企業の賃上げ動向」に関する調査結果では、昨年、今年とも「賃上げをする（定期昇給、ベースアップの両方）」と回答した企業は約2割。また、賃上げ実施状況は企業規模によって大きく異なっており、前述のフリー回答での厳しい意見も示すように、賃上げ効果はあくまでも限定的と思われる。

物価に対する実感は高止まりしており、「節約」モードが大勢を占めるなど慎重姿勢は根強く、消費行動が大きく改善する兆しは見えにくい。そのようななか、旅行・レジャーといった“たまの贅沢”や、自己啓発や教育など“将来への投資”には支出したいとする傾向がみられた。

以上